

2020（令和2）年度
学校自己点検・自己評価結果

Y I C看護福祉専門学校

学校教育法施行規則第189条及び第190条において専修学校及び各種学校についての準用が規定されており、専修学校・各種学校においては、自己評価の実施と評価結果の公表が義務化され、学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化されている。本校では、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めることを目的とし、学校自己点検・自己評価並びに学校関係者評価を実施している。

I 2020年度重点項目への取組

1 学生募集

- (1) OC・ガイダンス等の対応マニュアルを活かした個別対応の習熟
 - ・コロナ禍におけるOC・ガイダンスの機会の減少に伴い、個別クロージングの強化を図る
- (2) 重点校に対するの募集活動の継続・強化
 - ・本部広報と連携した重点校への募集活動の実施
 - ・コロナ禍での授業・実習の現状（取り組みと評価）報告
 - ・在校生の成績等を参考に入学選抜に係る入試区分別の評定検討
 - ・入学選抜の試験結果、在籍中の成績から入学選抜科目の検討
 - ・高校訪問による募集活動、在校生・卒業生の現況説明
- (3) 各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化
 - 4、5月のOC及びガイダンスの中止に伴い、
 - ・SNS・Webを活用した学校・学科説明
 - ・インスタグラムの動画ライブ配信
 - <看護学科>
 - ・OCのメイン企画8月のICLSの見学中止
 - ・学生による学科説明はオンラインで実施
 - <介護福祉学科>
 - ・福祉科のある高校の教諭、保護者、生徒への福祉の現状と学科説明
 - ・コロナ禍で留学生の日本語学校への入学が叶わず、国際事業センターや日本語学校と連携した留学生確保が低迷
 - <社会人入学生の確保>
 - ・学校説明会の開催をHPに掲載
 - ・社会人特待生制度、教育訓練給付金対象者サポート制度の説明
 - ・地域情報誌への掲載
 - ・ハローワークでの説明会

<その他>

- ・入学選抜試験選考料 5,000 円減免対象者拡大
- ・併願応援キャンペーンの導入

2 教育内容の充実

(1) 新カリキュラム改正に向けた準備

介護：新カリキュラム変更申請

看護：新カリキュラム改正に向け、カリキュラム編成検討

(2) 各学科・各学年の国家試験対策の計画的な実施

・各学科、各学年の目標設定、年間計画立案・実施

・チューター制による個別指導

・Microsoft 365 のアプリを活用した定期的な問題配信

3 学生支援体制の充実

(1) 看護学科の学年担当制の導入と円滑な実施

・1 学年 2 クラスを 3 人の教員で担当

・計画的な個人面談（学生生活への意欲度・満足度調査結果を活用し、生活・学習状況の把握）

(2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート

・在学期間を通し、Y I C キャリア事業部と連携した計画的な支援

・学生及び企業のニーズ把握（個別面談、企業訪問：卒業生就職先）

・学生への個別支援（履歴書、エントリーシート、小論文の添削、模擬面接）

(3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実

・週 1 回非常勤講師による日本語教育

・学生・教員チューターによる学習支援

・模試結果が目標値に達していない学生は補習クラスにて支援

(4) 高等教育の修学支援新制度導入

4 積極的な社会貢献活動

(1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信

・高校ガイダンス（職業理解、看護・介護の体験授業）

・連携講座

・高等学校教員対象説明会は中止し、学校訪問のみ実施

(2) 学生自治会を活用した地域住民との交流・ボランティア活動への参加
コロナ禍により

・地域自治会運営の交流会（いきいきサロン等）中止

・ボランティア活動への参加は数件

5 外部事業・付帯事業の満足度の高い企画・運営

- (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の企画・運営
・4月～1月に渡り受講者募集、延べ24回の集合研修、動画視聴による講義受講の企画運営
- (2) 介護福祉士実務者研修通信課程（6月～11月）実施
- (3) 認知症介護基礎研修、レクリエーション介護士2級研修は中止

II 2020年度学校自己点検・自己評価

1 学校自己点検・自己評価の実施

(1) 評価方法

①評価内容：全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価項目（資料）

9個の大項目、15個の中項目、126個の小項目

項目の重要度ランク

Aランク：設置基準レベル（専修学校として必須）—31項目

Bランク：全国専門学校経営研究会加盟校目標 —46項目

Cランク：理想的な姿（努力目標） —44項目

ランクなし：学校法人レベル —5項目

②評価基準：4：できている、 3：ほぼできている

2：あまりできていない、 1：できていない

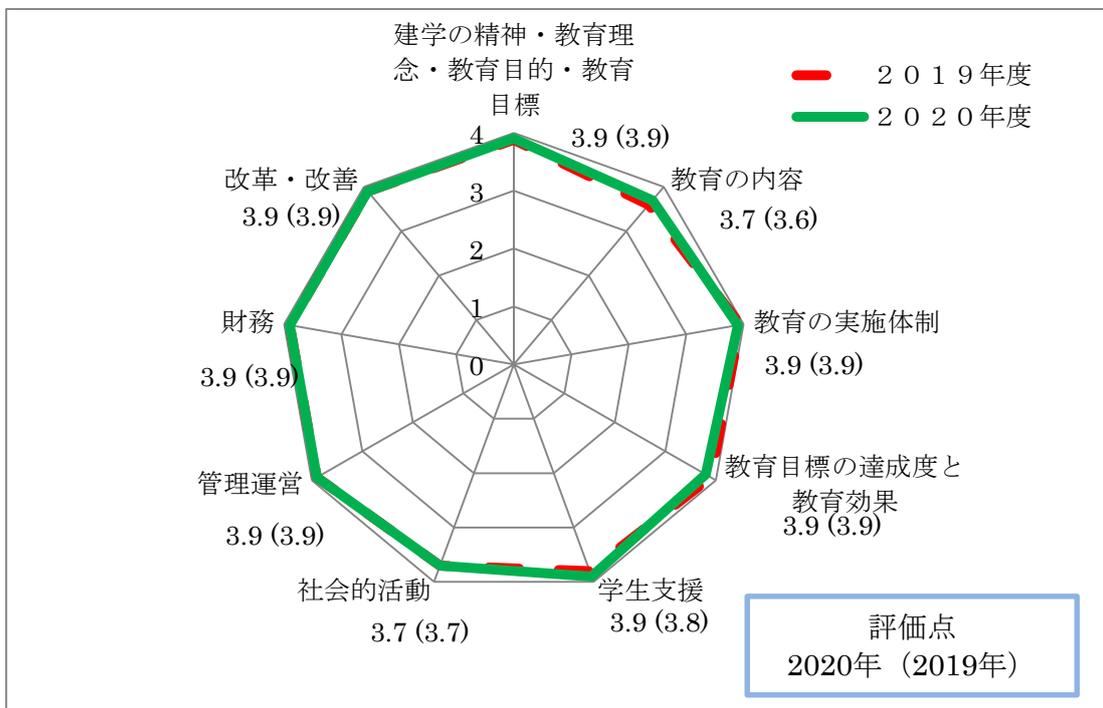
(2) 評価者：教職員全員

(3) 評価時期：2020年11月18日～12月18日

2 評価結果

(1) 大項目の評価結果（昨年度比較）

図1 2019年度及び2020年度の評価結果



(2) 項目の重要度ランク (A～C) 別結果

Aランク：大項目 1, 3, 5, 7, 8, 9 中 31 項目の評価平均 3.9

Bランク：すべての大項目中 47 項目の評価平均 3.9

Cランク：すべての大項目中 45 項目の評価平均 3.6

3 大項目の評価の根拠、課題と対策

(1) 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

<評価の根拠>

① 教育理念・目的・目標・育成人材像の明文化

職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等を盛り込んでいる。

- ・学校案内 (パンフレット)、ホームページ、学生便覧へ掲載している。
- ・各教室に校訓を掲示、学生や OC 等の来校者へ周知を図っている。
- ・経営計画書 (教職員手帳) に Y I C 学院の教育理念を掲載している。

(2) 教育の内容

<評価の根拠>

① カリキュラム作成への取組

- ・カリキュラム編成は、学科内で協議後、運営会議、教育課程編成委員会を経て学内決裁を得ている。
- ・シラバスは入学時に配布し、各科目の初回授業時に説明、国家試験出題基準、学生の授業評価を基に毎年見直しを行い、授業内容の充実を図っている。

カリキュラム作成に関する 4 項目で 0.6 上昇している。カリキュラム改正に向けた取り組みへの評価と考えられる。

② 教授学習プロセス改善への取組

- ・Microsoft 365 のアプリを活用した教員 (常勤・非常勤) の授業評価アンケートを実施し、教員自身の内省、教育内容の見直しに役立てている。
- ・授業評価に関する目標設定及び評価結果に基づく改善策等は、職務目標・能力自己申告の上長面接時に確認・評価しているが、授業評価に関する 7 項目のうち、C ランク 5 項目の結果に基づく「授業改善のための組織的な取り組み (授業改善委員会等) について」は、昨年と変わらず評価点 3.3 であった。

③ 業界ニーズに対応した付加的教育の取組

- ・実習前オリエンテーション、事前学習、自己評価・他者評価による学習の評価を実施し、目標到達度に応じて補習を実施している。
- ・ビジネスマナー、社会人基礎力育成講座 (自己理解、職業倫理、履歴書

の書き方等) の実施「ビジネス教育」は 3.7 で、0.2 上昇している。

- ・看護学科のビジネス教育は2年次から開始していたが、学内や実習施設におけるマナーに活かすことを考え、看護1年生に総合支援部の職員によるソーシャルスキルの授業を取り入れた。
- ・Y I Cグループ校との連携講座（看護－介護－理学療法・作業療法－美容）
- ・実習施設との定期的な会議の実施
- ・学内実習における模擬患者（グループ校の教職員）の導入

④ 教員の資質の維持・向上に向けた取組

- ・教員のスキルアップを目指し、研修計画を立案したが、コロナ禍で研修の多くは中止となった。
- ・年2回のY I C研修に加え、オンライン授業に向けグループ校（情報ビジネス学科）の教員による学内研修、オンラインによる専門研修として、改正カリキュラム関連、国試対策へ参加
- ・「専門性や指導力等の把握や評価・維持・向上のための内部研修・研究の実施」は 3.7、「時間的・財政的支援」は 3.5 でそれぞれ 0.2 上昇している。コロナ禍で増えたオンライン研修は、職場や自宅から一度に複数人の参加が容易であったためと考える。

<課題と対策>

- ① 課題：介護は 2021 年度、看護は 2022 年度にカリキュラム改正
対策：カリキュラム改正に向け、改正の主旨を理解し、教育効果の高いカリキュラム編成を行うために定期的なカリキュラム検討会議を開催。
- ② 課題：各科目の1コマごとの授業のシラバスが作成できていない科目もあるが、授業開始時にねらいや学習目標の提示はされている。
対策：学内教員においては、授業展開を含めたコマシラバスの作成に努める。
- ③ 課題：非常勤講師も含めすべての科目の授業評価を実施しているが、ほぼすべての科目の授業評価において、学生の教育に臨む態度「主体的な予習・復習」の結果が低い。
対策：評価項目は、主体的学習と課題への取組を区別した項目とする。主体的な学習の準備や学習のまとめが授業内容の理解につながる経験を積み重ねていけるように意図的に導く（学習意欲として評価していく）
- ④ 課題：評価が 3.5 未満の項目はすべてCランクではあるが、特に各学科の教育目標、育成人材像に向けた教授学習プロセスの改善（教育内

容マトリックスに基づく組織的な授業改善) が求められる。

対策：カリキュラム内容検討に併せ、授業内容マトリックスの検討を行い、科目の横断的な教授内容、領域や学科を越えた授業コラボレーション等への取り組みを検討するとともに、授業観察、授業リフレクションを積極的に実施し、組織的に授業改善に取り組んでいく。

(3) 教育の実施体制

<評価の根拠>

① 教育環境の整備・活用

- ・組織図があり、コミュニケーションルートが明確に示されている。
- ・年間行事スケジュールを立案し、計画的な取組を行っている。
- ・環境整備点検を月1回計画的に実施している。
- ・防災・防火、感染症発生等に関する危機管理マニュアルを備え、防災規程に則り年1回の防火訓練を実施している。
- ・「学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか」は3.7とカテゴリーの中で最も低い評価であり、介護に関する専門図書の不足が理由として上がっている。

<課題と対策>

- ① 課題：最新の情報は雑誌の活用を勧めているが、必要な専門図書の購入計画は立てられていない。

対策：各科の図書委員を窓口し、図書購入計画を立案し、学生に紹介する体制を整える。

(4) 教育目標の達成度と教育効果

<評価の根拠>

① 教育目標、育成人材像に向けその達成への取り組みと評価

- ・就職希望者の就職内定率目標・実績 100%
- ・就職活動記録（インターンシップや見学会、説明会への参加報告、就職試験報告、内定報告を受けデータ入力）
- ・国家試験合格率目標 100%
- ・レクリエーション介護士2級取得
- ・退学率目標 3%以下、現在の退学率 1%
- ・HP公表データ：就職率と就職先、国家試験合格率、退学者数
- ・卒業生の就職先に連絡し、就業状況を確認、卒業生及び職場の上司にアンケート調査を実施

<課題と対策>

- ① 課題：在籍学生数：令和2年4月当初 198名

休学5名、(理由は学校生活・進路不安、家庭の事情、身体的理

由) 退学2名(理由は進路変更)

対策: 学年担当を窓口、相談しやすい環境を整える

総合支援部と連携し、身体的・精神的理由による学生生活が困難な学生、学習習慣がついておらず学習困難な学生、休学中の学生等の支援を行う。

保護者も含め、相談や検討を十分行い、学生自身が納得した上で進路が決定できるように支援する。

(5) 学生支援

<評価の根拠>

① 入学前の学生支援の整備

- ・学校案内パンフレットに育成人材像や目指す資格、学費や教材費、OCの日程や内容を掲載
- ・教員・学生のOC担当スタッフミーティングを実施し、対応や説明内容の共有化
- ・学生募集要項に選抜方法を明示
- ・入学予定者への学習指導(入学前教育教材を1月に送付し、入学後課題提出)
- ・入学前オリエンテーション(3月)はコロナ禍にて中止

② 在学時の学生支援の整備

- ・看護学科は複数教員による学年担当制を導入して2年目、介護福祉学科は担任、副担任を配置している。
- ・年度当初の約1ヶ月の休校時は、電話連絡による健康状態の確認に加え、精神的支援、学習面での支援に努めた。
- ・クラス・学年担当中心に定期的な学生面談の実施と面談記録の共有
- ・キャリアサポーターの計画的な資格取得(複数名体制)を予定しているが、今年度はコロナ禍により研修参加は中止
- ・外国人留学生の生活指導、日本語教育
- ・国家試験合格に向けた学習指導体制(各学科・各学年別)
- ・オンライン授業導入準備から実施への支援
- ・Microsoft 365のアプリを活用した課題配信、諸連絡、アンケートの実施
- ・卒業前技術演習

③ 卒業後の学生支援の整備

- ・卒業生への就職相談
- ・「卒業生の就職先への定期的な訪問」は3.5と0.2低下している。毎年計画していることではあるが、就職先は医療・福祉関連施設であり、

コロナ感染症拡大予防のため企業訪問を中止した結果と考える。

- ・ 8月のホームカミングデー（介護・看護）は、コロナ感染症拡大予防のため中止

④ 学校情報の通知

「学校情報を保護者に知らせているか」は3.8であるが、コロナ感染症拡大予防策としての臨時休校措置の際、保護者への通知は、学生へ休校を指示した後、保健所の指示を受け今後の方針を決定した後であったため、保護者から数件の問い合わせがあった。

<課題と対策>

- ① 課題：コロナ感染症の拡大に伴う臨時休校措置や感染予防対策としての自宅学習への対応

対策：オンライン授業やオンデマンド活用に必要な機器の整備とそれに合わせた授業準備を推進し、効果的な機器の取り扱いの習熟に努める。

- ② 課題：個人情報保護の目的から、学生の家族情報は問わず、緊急連絡先は電話番号のみ把握していた。今回、休校措置の保護者への通知は休校期間や接触者の絞り込み等が決定した後となったことで、保護者の勤務先への出勤の可否等に影響があり、問い合わせが数件あった。

対策：保護者への連絡は、個人情報の取り扱いについて同意を得た上でLINE やメールを活用し、休校措置を決定した場合の1報がタイムリーに配信できるようにする。

- ③ 課題：学生個々の情報把握と共有化、タイムリーな学生支援

対策：担任・副担任間、学年担当間、学科内の情報共有、連携を更に強化し、学生支援にあたる。

(6) 社会的活動

<評価の根拠>

- ① 意図的・計画的・組織的な社会活動への取組

- ・ 学生ボランティア活動の要請は4件あったが、コロナ禍で3件は活動中止、参加1件
- ・ 定期的な自治会や高等学校福祉科との交流もコロナ禍で中止
- ・ 地域の自治会と協力したOCの企画もコロナ禍で中止
- ・ 社会福祉協議会、高齢者保健福祉推進会議、障害者福祉推進会議、山口県介護福祉士会、山口県看護協会防府支部、介護認定審査会等の委員を務め、定期的な委員会に参加している。

<課題と対策>

① 課題：積極的な医療・福祉に関する情報発信・啓発活動

対策：コロナ感染症終息後に備え、諸団体（介護福祉団体、社会福祉協議会、看護協会、町内会等）と連携を取り合う。

(7) 管理運営、(8) 財務

<評価の根拠>

① 学校の管理運営体制の確立

- ・ 防災・防犯・非常時対策が危機管理マニュアルに明記されている。
- ・ 理事会・評議委員会、人事規程・賃金制度等、本部管理のものも多くあるが、本校においては、各部門代表者による経営状況や運営状況を協議する会議、管理職による学校運営会議、管理職・各部門担当によるアメラバ会議、全職員による職員会議を毎月実施している。また、各学科会議を随時開催し、円滑な学科運営を心掛けている。
- ・ 外部委員を委嘱し、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、職業実践専門課程認定校としての責任が果たせるよう努力している。
- ・ 外部委員として、防府市障害者保健福祉推進協議会、防府市高齢者保健福祉推進会議、防府市地域総合支援協議会、防府市社会福祉事業団連絡会議、防府市社会福祉協議会評議委員会、介護福祉士会理事会、社会福祉研修事業運営委員会、等を承引している。

(9) 改革・改善

<評価の根拠>

① 自己点検・評価活動の実施体制が確立し、改革・改善のためのシステム構築

- ・ 学校教育法施行規則第 189 条及び第 190 条に基づき、Y I C 学院は「全国専門学校経営研究会自己点検・自己評価表」による学校自己点検・自己評価を毎年実施している。
- ・ 自己点検・自己評価結果は、学校関係者評価委員会で報告、承認を得て、公表資料を作成している。また、委員からの意見を参考に次年度の重点項目を定め改善に向け組織的に取り組んでいる。
- ・ 自己点検・自己評価結果は、報告書にまとめ、HPで公表している。

<課題と対策>

① 課題：学校自己点検・自己評価結果は、運営委員会を経て職員会議で報告しているが、教職員個々の課題として周知する必要がある。

対策：次年度の重点項目については、運営会議で再度検討し、職員会議等で周知する。

2021年度の重点項目（案）

1 学生募集

- (1) 各ガイダンス（高校・会場）からOCへの導線強化
- (2) OC、ガイダンス等の対応マニュアルを活かした学生募集
- (3) SNSを活用した募集活動の強化
- (4) 重点校に対しての募集活動の継続、強化

2 教育内容の充実

- (1) Microsoft 365 のアプリを活用した教授・学習方法の工夫
- (2) 国家試験対策の計画的な実施と強化
- (3) 育成人材像に向けたカリキュラム編成
 - ① 介護：新カリキュラムの実施と評価
 - ② 看護：新カリキュラム申請に向け効果的なカリキュラム編成の検討

3 学生支援体制の充実

- (1) クラス・学年担当による活気溢れる運営 または 円滑な運営
- (2) 学生・企業のニーズに応じた計画的・効果的なキャリアサポート
- (3) 留学生および学力の低い学生への学習支援の充実

4 積極的な社会貢献活動

- (1) 高校との連携を通じた看護・介護の魅力発信
- (2) 地域住民との交流・ボランティア活動への参加

5 外部事業・附帯事業の満足度の高い企画・運営

- (1) 相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等研修事業の円滑な運営
- (2) 外部事業・附帯事業の前年度アンケート結果を活かした企画・運営